

市政記者クラブ 様

令和6年8月8日(木)

健康福祉局健康部感染症対策課

(結核以外) 黒坂、近藤 電話:972-2631 (結核) 竹田、増田 電話:972-2633

名古屋市感染症発生動向調査(令和6年7月分患者発生状況)について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、 分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報 提供を行っています。

1 7月の感染症発生状況(報告のあった疾病のみを記載)

(診断日で集計)

疾 病 名	令和6年7月	令和5年7月
◆一類感染症		
(発生なし)	0件	0件
◆二類感染症		
• 結核	41件	42件
◆三類感染症		
• 腸管出血性大腸菌感染症	3件	12件
◆四類感染症		
・ジカウイルス感染症	1件	0件
チクングニア熱	1件	0件
・マラリア	1件	0件
レジオネラ症	3件	3件
◆五類感染症(全数把握疾病)		
・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	6件
・急性脳炎**	1件	0件
・劇症型溶血性レンサ球菌	3件	1件
・後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	5件	6件
・侵襲性インフルエンザ菌感染症	4件	2件
• 侵襲性肺炎球菌感染症	2件	3件
・梅毒	3 4 件	45件
・百日咳	2件	3件

◆五類感染症(定点把握疾病:第27週~第30週(7月1日~7月28日分))

・報告数の多い疾病は、①新型コロナウイルス感染症(4,398件:前月比3.10倍)、②手足口病(2,635件:前月比1.85倍)、③A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(436件:前月比0.67倍)の順となっています。

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳 炎及びリフトバレー熱を除く。

2 トピックス

《新型コロナウイルス感染症 ~今後更なる流行に注意しましょう~》

新型コロナウイルス感染症は、感染者の口や鼻から、咳、くしゃみ、会話などの時に排出される、ウイルスを含む飛沫又はエアロゾルと呼ばれる更に小さな水分を含んだ状態の粒子を吸入するか、感染者の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染します。また、ウイルスが付いたものに触った後、手を洗わずに、目や鼻、口を触ることにより感染することもあります。感染すると、多くの症例で発熱、呼吸器症状(咳、咽頭痛、鼻汁、鼻閉など)、頭痛、倦怠感などがみられます。発症後3日間は、感染性のウイルスの平均的な排出量が非常に多く、5日間経過後は大きく減少することから、特に発症後5日間が他人に感染させるリスクが高いことに注意してください。

夏休みに入り、今後お盆の時期を迎えるにあたり、旅行や帰省、イベントなどへの参加、 人流が増加することが見込まれます。市民の皆様には、必要に応じて、換気や手洗い、手指 消毒を行っていただくとともに、熱中症に注意しながら、効果的な場面でのマスクの着用を 含めた咳エチケットなどの基本的な感染防止対策に取り組みましょう。

名古屋市内における新型コロナウイルス感染症の流行状況等の情報は、本市ウェブサイト に掲載していますので、ご参照ください。

(URL: https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000125324.html)

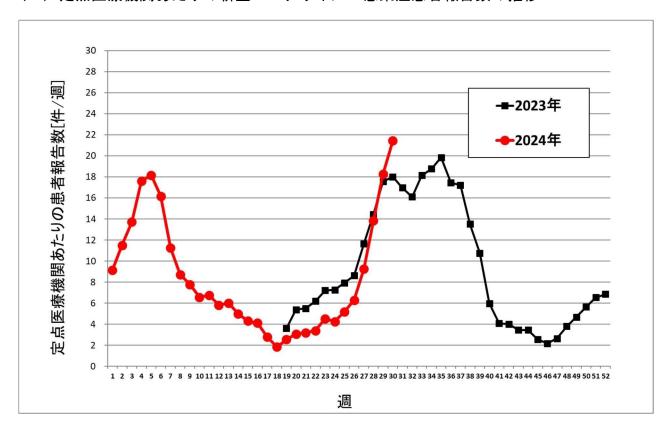
~『咳エチケット』とは~

- ◎咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、周りの人から顔をそむけましょう。
- ◎鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにフタ付きのゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。
- ◎症状のある人はマスクを正しく着用し、周囲への感染防止に努めましょう。

(1) 定点医療機関あたりの新型コロナウイルス感染症患者報告数(過去3週分)

	名古屋市	愛知県 (本市を含む)	全国 (愛知県を含む)
定点医療機関数	70	195	約 5,000
2024 年第 27 週 (7/1-7/7)	9. 27	9. 73	8. 07
2024 年第 28 週 (7/8-7/14)	13. 84	15. 62	11. 18
2024 年第 29 週 (7/15-/7/21)	18. 27	20. 82	13. 62
2024 年第 30 週 (7/22-7/28)	21. 44	23. 25	14. 58

(2) 定点医療機関あたりの新型コロナウイルス感染症患者報告数の推移



3 病原体分離情報(令和6年7月検査分)

- 1. 令和6年6月24日発症、令和6年6月26日に市内医療機関を受診し、喘息性気管支炎(ウイルス感染疑い)と診断された、千種区在住、2歳、男児の検体(咽頭拭い液)から、かぜ(症候群)を示すことが知られているアデノウイルス1型(AdV-1)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
- 2. 令和6年6月22日発症、令和6年6月22日に市内医療機関を受診し、手足口病と診断された、南区在住、0歳11か月、男児の検体(咽頭拭い液)から、手足口病を引き起こすコクサッキーウイルス A 群 6型(Cox-A6)を遺伝子検査法により検出・同定しました。また同一検体から呼吸器感染症の原因となるアデノウイルス3型(AdV-3)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
- 3. 令和6年6月24日発症、令和6年6月27日に市内医療機関を受診し、上気道炎、熱性けいれんと診断された、南区在住、1歳、男児の検体(咽頭拭い液)から、多くの人で1歳半までに初感染を生じ突発性発疹の原因として知られているヒトヘルペスウイルス6B型(HHV-6B)を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、別検体(便)から、比較的軽症の胃腸炎や呼吸器感染症の原因となるヒトパレコウイルス2型(HPeV-2)を、さらにアデノウイルス型別不能(AdV-NT)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
- 4. 令和6年6月25日発症、令和6年6月26日に市内医療機関を受診し、敗血症と診断された、守山区在住、0歳0か月、男児の検体(咽頭拭い液・尿)から、1. 先天性サイトメガロウイルス感染症、2. 新生児、乳児期感染、3. 健常人における感染、4. 移植患者における感染などを起こすことが知られているサイトメガロウイルス(CMV)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
- 5. 令和6年6月29日発症、令和6年7月8日に市内医療機関を受診し、手足口病と診断された、守山区在住、2歳、女児の検体(咽頭拭い液)から、手足口病を引き起こす<u>コ</u>クサッキーウイルスA群6型(Cox-A6)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
- 6. 令和6年6月29日発症、令和6年7月3日に市内医療機関を受診し、手足口病と診断された、中区在住、0歳2か月、男児の検体(咽頭拭い液)から、手足口病を引き起こす**コクサッキーウイルス A 群 6 型 (Cox-A6)** を遺伝子検査法により検出・同定しました。
- 7. 令和6年7月16日発症、令和6年7月17日に市内医療機関を受診し、新型コロナウイルス感染症と診断された、東区在住、47歳、女性の検体(咽頭拭い液)から、新型コロナウイルス感染症を引き起こす新型コロナウイルス(重症急性呼吸器症候群ウイルス2型=SARS-CoV-2)を遺伝子検査法により検出・同定しました。

- 8. 令和6年6月12日発症、令和6年6月14日に市内医療機関を受診し、水痘もしくは 手足口病と診断された、中村区在住、0歳3か月、男児の検体(咽頭拭い液)から、か ぜ(症候群)、発疹、手足口病を引き起こすことが知られている<u>コクサッキーウイルス</u> A群6型(Cox-A6)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
- 9. 令和6年6月12日発症、令和6年6月20日に市内医療機関を受診し、RSウイルス感染症疑いと診断された、千種区在住、1歳、男児の検体(咽頭拭い液)から、1. 先天性サイトメガロウイルス感染症、2. 新生児、乳児期感染、3. 健常人における感染、4. 移植患者における感染などを起こすことが知られているサイトメガロウイルス(CMV)を、さらにアデノウイルス型別不能(AdV-NT)を遺伝子検査法により、検出・同定した。
- 10. 令和6年6月18日発症、令和6年6月21日に市内医療機関を受診し、急性気管支炎と診断された、千種区在住、5歳、女児の検体(咽頭拭い液)から、主に乳幼児期に感染し突発性発疹等を引き起こすことが知られている上トヘルペスウイルス7型(HHV-7)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
- 11. 令和6年6月21日発症、令和6年6月22日に市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、千種区在住、8歳、女児の検体(咽頭拭い液)から、主なかぜの原因ウイルスで、比較的軽症に経過することが多い<u>ヒトライノウイルスA群(HRV-A)</u>を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体から主に乳幼児期に感染し突発性発疹等を引き起こすことが知られている<u>ヒトヘルペスウイルス7型(HHV-7)</u>を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報(週報)

令和6年 第27週~第30週 (7月1日~7月28日)

				小児	見科・イン	フルエン (70医療		-19定点報	告				眼科定 (11医療				基 (幹定点報 3医療機関	告 引)			
	ンザ等感染症を除く)(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ及び新型インフルエ	新型コロナウイルス感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	龙痘	手 足 口 病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	菌を原因として同定された場合を除く)(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く)クラミジア肺炎	のに限る) のに限る) 感染性胃腸炎	インフルエンザによる入院患者	よる入院患者新型コロナウイルス感染症※に	合計
千種	0	189	14	6	21	33	15	310	1	4	23	0	0	0								616
東	5	225	4	3	29	1	1	114	0	2	6	0										390
北	2	261	6	3	13	41	4	108	0	1	9	0	0	1	0	0	2	0	0	0	19	470
西	6	257	74	21	83	21	5	586	0	7	110	2	0	_								1172
中村	6	402	31	1	9	39	1	61	0	0	2	0	0	0								552
中	10	263	16	3	77	18	5		1	3	7	1										566
昭和	6	409	1	0	4	23	0	14	0	0	2	0	0	-	0	0	14	0	0	0	58	531
瑞穂	0	186	0	0	2	0	0		0	0	1	0	0	_								197
熱田 中川	3 11	191 433	0	0 18	29	27	0	27 239	0	0	79	0	0	0			17	0		1	60	222 926
円川 港	2	233	1	10	1	25	1	46	0	0	5	0			1		11	$\overline{}$		1	00	315
南	10	349	31	2	22	10	0		0	0	3	0	0	0								481
守山	11	244	16	1	19	47	20	326	4	3	14	1	<u> </u>									706
緑	29	374	0	0	35	79	1	130	1	0	42	0	0	3								694
名東	28	192	32	12	86	35	1	378	0	2	56	0	0									822
天白	6	190	0	0	6	29	5	76	0	2	6	0	0									321
合計	135	4, 398	234	71	436	429	60	2, 635	7	25	365	4	0	9	1	1	33	0	0	1	137	8, 981
前月	44	1, 419	219	111	655	493	38	1, 424	7	40	295	9	0	14	3	4	15	0	0	2	52	4, 844
前月比	3. 07	3. 10	1. 07	0.64	0. 67	0.87	1. 58	1.85	1.00	0. 63	1.24	0. 44	_	0.64	0.33	0. 25	2. 20	_	_	0.50	2. 63	1.85
昨年同月	181	4, 317	387	127	262	546	27	67	3	32	1, 181	18	0	14	0	0	0	0	0	0	-	7, 162

※病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。 注1 新型コロナウイルス感染症の基幹定点報告は、令和5年第39週分(令和5年9月25日~)から集計。

注2 は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報(月報) 令和6年7月

	,	性感染症 (15医療	聚機関)			幹定点報 医療機関		
	感染症のラミ	ウ イ ル ス ル ペ ル ペ	尖圭コンジ	淋菌感染症	感染症 すチシリン	肺炎球菌感	緑 濃 瀬 耐 性 染	合
	ラミジア	染ス 症	マーマ	,	球耐菌性	染耐症性	症	計
千種	0	0	0	0				0
東								
北	23	8	4	13	3	0	0	51
西	1	1	0	0				2
中村	5	3	4	2				14
中	51	45	29	13				138
昭和	13	3	4	2	3	0	0	25
瑞穂	1	0	1	0				2
熱田								
中川	9	3	12	6	6	1	0	37
港	4	2	1	0				7
南	1	1	0	0				2
守山								
緑	12	0	0	4				16
名東	2	0	0	0				2
天白	1	1	0	1				3
合計	123	67	55	41	12	1	0	299
前月	132	74	48	50	16	0	0	320
前月比	0.93	0.91	1. 15	0.82	0.75	_	_	0. 93
昨年同月	97	29	30	45	1	0	0	202

注しは、報告する医療機関がないことを表す。

7月分患者報告数							
週報分	8, 981						
月報分	299						
合 計	9, 280						

令和6年 7 月の一~三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和6年 7 月	令和6年計	令和5年計	令和4年計
	75 7N 12	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
	エボラ出血熱	_	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	ı	-	-	-
一類	痘そう	ı	_	_	-
感染	南米出血熱	ı	ı	-	-
症	ペスト	ı	-	_	-
	マールブルグ病	-	-	_	_
	ラッサ熱	-	-	_	_
	急性灰白髄炎	-	-	_	-
	結核		次ペー	・ジ参照	
1	ジフテリア	-	_	_	_
一類感染	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
症	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1) 鳥インフルエンザ	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	ı	_	-	-
	コレラ	ļ	-	-	-
三類	細菌性赤痢	ı	-	-	_
感染	腸管出血性大腸菌感染症	3	12 (1)	62 (13)	30 (2)
症 症	腸チフス	-	-	_	-
	パラチフス	_	_	2 (1)	
	合 計	3 (0)	12 (1)	64 (14)	30 (2)

注1 一~三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。 注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和6年 7 月 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数	令和4年計 患 者 数		
O157	2	6	48 (6)	20 (2)		
026	1	2	4	5		
0103	_	1	_	_		
0121	-	-	_	4		
その他	-	1 (1)	1 (1)	-		
型不明	_	2	9 (6)	1		
合 計	3 (0)	12 (1)	62 (13)	30 (2)		

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況 (月報)

	令和6年7月(※)						会系		令和4年計			
保健セン			(別掲)	 活動性		(別掲)		205年計(<i>)</i> 生結核	(別掲)	江 新小	生結核	(別掲)
ター名		ビバロイタ うち喀痰塗抹	無症状病原体		エバロイク うち喀痰塗抹	無症状病原体		エルイタ うち喀痰塗抹	無症状病原体		エハロイタ ┃うち喀痰塗抹	無症状病原体
	総数	検査陽性者数	保有者	総数	検査陽性者数	保有者	総数	検査陽性者数	保有者	総数	検査陽性者数	保有者
千種	0	0	0	9	2	0	21	10	5	18	3	11
東	2	1	0	7	4	1	4	1	6	13	5	4
北	0	0	2	11	7	4	18	8	14	26	15	5
西	1	1	2	7	2	7	12	5	11	15	6	8
中村	2	0	2	10	1	4	21	4	10	26	13	8
中	4	1	2	11	4	6	21	9	12	9	3	8
昭和	2	0	1	11	4	2	13	2	6	9	2	5
瑞穂	0	0	1	4	0	2	8	2	3	14	7	2
熱田	1	1	0	5	2	2	3	1	4	9	1	5
中川	0	0	0	10	5	10	31	8	20	24	9	12
港	1	0	0	8	1	3	23	5	10	26	5	11
南	0	0	1	11	4	5	18	7	12	24	9	9
守山	4	2	3	18	9	5	21	12	11	18	10	6
緑	5	5	1	15	6	5	19	5	18	21	8	9
名東	0	0	0	5	2	2	10	4	7	16	6	10
天白	2	0	2	6	2	2	19	8	5	15	2	7
全市	24	11	17	148	55	60	262	91	154	283	104	120

[※]令和5年・令和6年の数値は速報値です。

四類感染症(44疾病)

(診断日で集計)

疾 病	名			令和	6年7月		令:	和6年	計	令:	和5年	計	令:	和4年	計
大 柄	10	患	者	数	備	考	患	者	数	患	者	数	患	者	数
E型肝	F炎		-					4			5			1	
A型肝	F炎		-				_			1		1			
エムポッ	· クス		_					-			3			_	
ジカウイル	ス感染症		1					1			_			_	
重症熱性血小板	減少症候群※		_					-			_			1	
チクング	ニア熱		1					1			_		-		
つつが	虫病		-					-			1			3	
デンク	禁		_					2			6			2	
日本紅	斑熱		_					1			1			_	
マラリ	ア		1					1			1			3	
類鼻	疽		-					-			-			1	
レジオネ	くラ症		3					21			32			47	
レプトス	ピラ症		_					-			1			-	
合	計		6					31			51			59	

- ※ 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。
- 注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。
- 注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握(24疾病)

(診断日で集計)

下	令	和6	年7月		令和6	年計	令	和5年	計	令和	04年	計
 	患者数	汝	備を	Š	患者	数	患	者	数	患	者	数
アメーバ赤痢	_					11			13			12
カフェラ料町水				-		_	B型	₫:	2			-
ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	-			-		-			_			-
				-	その他	1	その	他:	3			-
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6					32			53			62
急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く。)	_					-			-			1
急性脳炎※	1					7			17			3
クロイツフェルト・ヤコブ病	_					-			3			3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3					35			22			28
			無症候性キャリア:	4	無症候性キャリ	7: 19	無症候性	生キャリア:	55	無症候性	キャリア:	39
後天性免疫不全症候群	5		AIDS:	1	AIDS	: 9	ΑΙΙ) S:	20	АІГ) S :	16
				_		_			_	その	他:	2
ジアルジア症	_					1			-			-
侵襲性インフルエンザ菌感染症	4					10			14			8
侵襲性髄膜炎菌感染症	_					_			1			1
侵襲性肺炎球菌感染症	2					51			54			36
水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	_					8			8			3
			早期顕症梅毒:	18	早期顕症梅	量: 149	早期顕短	定梅毒:	333	早期顕症	梅毒:	296
梅毒	34		晚期顕症梅毒:	1	晚期顕症梅	# : 6	晚期顕短	定梅毒:	4	晚期顕症	梅毒:	5
11 11 111	04			-		-	先天村	毎毒:	5			-
			無症候梅毒:	15	無症候梅毒	£: 78	無症候	梅毒:	126	無症候	梅毒:	108
播種性クリプトコックス症	_					1			1			3
破傷風	_					_			1			1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	_					1			_			-
百日咳	2					6			16			2
麻しん	-					2			-			_
合 計	57				427			751			629	

- ※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。
- 注1 五類感染症全数把握(侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く)を診断した場合は7日以内に届出が必要。
- 注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義(感染症法)

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみ た危険性が極めて高い感染症
二類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみ た危険性が高い感染症
三類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみ た危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の 集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 (44 疾病)	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を 介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必 要となる感染症
五類感染症 (全数:24疾病) (定点:25疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ 等感染症 (4疾病)	【新型インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ/コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ/再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ/コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一〜三類及び新型インフルエンザ等感 染症に分類されない感染症において一〜三類に準じた対応の必 要が生じた感染症(政令で指定)
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症 と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重 篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

(令和6年7月31日時点)